

果樹病虫害発生予察調査結果（7月10日調査分）
（三条、加茂、田上地域）

7月10日（火）に実施した予察調査結果をお知らせいたします。

（モ モ） ※せん孔細菌病、灰星病が進展！ハダニにも注意。

定点園地ごとに5新梢について調査したところ、せん孔細菌病が進展しています。園地によっては果実発病も見られてきました。今後さらに進展する恐れがありますので、特に中・晩生品種では可能な範囲で薬剤防除を実施してください。また、夏型枝病斑は見つけ次第せん除し、ほ場外へ持ち出し・処分してください。

灰星病が一部の園地で確認されました。今後進展が懸念されますのでJAから配布されるモモの除袋時期及び薬剤防除スケジュールを参考に灰星病防除を徹底してください。

モモハモグリガは現在成虫期と推察されます。現在発生は抑制されていますが、発生が目立つ園地では適宜対応をお願いします。

ハダニについては、梅雨明け後の高温により発生が懸念されます。昨年発生の多かったところでは殺ダニ剤の散布を検討してください。

（ナ シ）

※セイヨウナシ褐色斑点病は発病拡大。ハダニに注意！

定点園地ごとに5新梢について調査した結果、セイヨウナシ褐色斑点病は、新梢停止していない枝の先端部で発病が見え始めました。この時期新梢が伸び、薬剤が届きにくい状態であることと、停止していない葉は柔らかく感染しやすいことが原因と考えられます。昨年よりも発生量自体は抑えられていますが、改めてSSの走行路を変更したり風量を落とさない等、散布ムラの解消に心掛け、罹病した葉や果実は園地外へ持ち出してください。また現在セイヨウナシ黒斑病も発病しているとみられます。病斑は区別がつかないので、薬剤散布は黒斑病防除に準じ丁寧をお願いします。

クワコナカイガラムシは、第一世代の防除時期は7月11日～25日頃と見られます。（防除薬剤は有機リン剤等が有効です）

また、この害虫を狙った殺虫剤の連続散布は非常に有効であることが確認されています。(孵化時期がダラダラなため) 昨年発生が多かった園地では確実な対応をお願いします。

アブラムシは、一部で密度上昇が確認されていますので注意してください。

ニセナシサビダニの発生が確認されています。また、ハダニについても気温上昇により増加してきますので、発生のある場合は早めに対応してください。

※ この時期の薬剤防除について、収穫期が近くなっている樹種もありますので隣接する園地に対する収穫前日数、ドリフト等に十分注意してください。

薬剤の散布時期についての詳細は、JAにいがた南蒲各選果場、あぐりセンターに情報が掲載されていますのであわせてご確認ください。

なお、これに関連した情報、その他生育情報等については農業普及指導センターよりJAをとおして情報が送付される予定です。

※次回の調査は7月25日(水)です。よろしくお願ひします。

※本日実施した予察調査結果については、組合ホームページ上でも御確認いただけます。

担当：果樹共済係

TEL0258-36-8105